

# 高新スポーツ賞の顔

① カヌー

## 渡辺裕征・下元悠太郎(明德義塾高)

全国高校総体男子カナディアンペア200㍓優勝

横浪半島にある明德義塾高の寮は、学校の敷地内にある。だから、寮生は在学中のほとんどを学校の中で過ごす。高校日本一になった渡辺裕征と下元悠太郎がカヌーを始めたのは「部活で毎日校外に行ける」という軽い気持ちもあった。もちろん、それだけではないのだが。

渡辺は静岡の中学で野球を少々。窪川出身の下元は剣道2段。2021年春の入学時、2人とも全くの初心者だった。当時創部2年目だったカヌー1部の本杉風音監督は、部活動をしていない1年生に片っ端から声をかけた。その中に2人はいた。「学校の外に行ける」と言われたような、言われなかったような。

練習は学校から車で15分ほどの浦ノ内湾カヌー場。渡辺は「コンビとかあるかと思っただけ」と少しがっかりした。ただ、海にこぎ出すのは楽しかった。

「手足が長くてパワーがある渡辺と、器用で頭が切れる下元。2人が組んだら面白そう」。何となくそう感じた本杉監督は、艇の片側だけをこぎカナディアン(2人乗り)を勧めた。

「どちらが艇の前に乗るのか。カヌーの2人乗りは力のある選

## 軽い気持ちから頂点へ

手が前で引つ張る「前輪駆動の方が安定する。上達の早かった下元が前に乗った。しかし、昨秋の鹿児島国体で1人乗りの200㍓、500㍓で優勝するなど大きく成長した渡辺が、入部2カ月後には下元を追い抜いた。

「前後入れ替え」を何度も試みたものの、どうもしっくりこない。結局、バランスが良くないといわれる「後輪駆動」のまま日本一になった。2人は寮も同じ部屋。会話はいつの間にかカヌーの技術論に

なり、そしてダンベルを手に持った。「明德の寮に居ると、それしかできないので」と2人は楽しそうに振り返った。

順風満帆そのものに見えるコンビにも、実はピンチがあった。準優勝した2022年10月11日の栃木国体200㍓の後、カヌー以外の悩みで渡辺が2週間ほど練習に来なくなった。

それでも下元は「ずっと裕征に負けてばかり。今は勝つチャンス」と、むしろ練習に熱が入った。そして、渡辺が戻ってきた同日23日、四国高校新人大会のカナディアンペアで優勝。「自信になった」と2人は口をそろえる。一緒に練習できなかった時間を乗り越え、技術的にも精神的にも成長できたのだから。

渡辺は関西の大学でカヌーを続ける予定で、まずはU23世界選手権を目指す」と目を輝かせる。関東の大学で学業に専念するという下元は「裕征の試合、絶対応援に行く」。もう、一つの艇に乗ることはない2人。それでも、固い友情はずっと続いていく。(井上太郎)



艇を担いで笑う渡辺裕征(右)と下元悠太郎。同じ艇に乗ることはもつないが、友情はずっと続く

(浦ノ内湾カヌー場)河本真澄撮影

2023年に開かれた全国規模以上の大会で好成績を残し、高新スポーツ賞に選ばれた4団体7個人を紹介する。